

2019年度学生アンケートの結果

2019年度の学生アンケート（調査期間：2019年12月）結果について報告する。在籍者479名のうち、351名（経営36/43名、心理7/7名、文化22/23名、教育141/184名、国際教養139/222名、不明6名；日本人学生221名、留学生124名、不明6名）より回答を得た（回収率：73.3%）。以下、2018年度と比較し結果を示す。

1. 大学生生活の満足度

大学生生活の満足度（「満足」～「不満」の4段階評価）について、「満足」もしくは「ほぼ満足」に回答した者の割合を図1に示した。2019年度は2018年度と同等もしくは上回っており、全般的に満足度は上昇傾向にある。また、前回同様に「クラスメイト」及び「ゼミナールⅠ・Ⅱ」が高い。「ゼミナールⅢ・Ⅳ」は、2018年度51.8%から2019年度56.1%へ、「授業の雰囲気」は65.1%から69.5%へ、「大学生活(全般)」は66.5%から70.1%へ改善傾向がみられた。

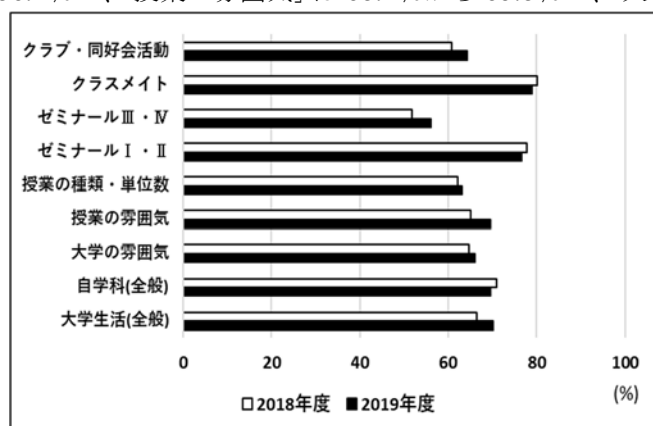


図1 大学生生活の満足度

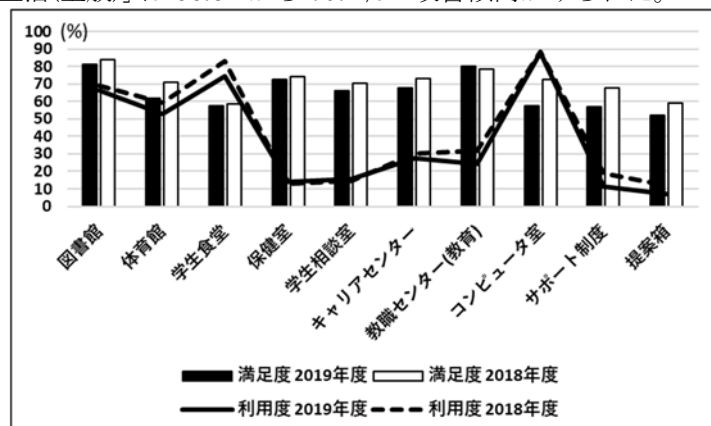


図2 大学施設・制度の利用度と満足度

2. 大学施設・制度の利用と満足度

大学の施設及び制度の利用度（「よく利用した」～「全く利用しなかった」の4段階評定）と満足度（「満足」～「不満」の4段階評価）の結果は、利用度として「よく利用した」及び「ときどき利用した」、満足度として「満足」及び「ほぼ満足」に回答した者の割合を図2に示した。満足度は、教育学部生対象の教職センターを除き低下した。図書館は2018年度と比較しわずかに低下したが、満足度80.9%で最も高く利用度(66.1%)も高い。次に教職センター(80.1%)、保健室(72.4%)の順であった。利用度は2018年度同様にコンピュータ室が88%と非常に高く、次いで学生食堂が74.4%で2018年度83.1%からやや低下した。全体的に満足度の低下傾向がみられた点、特にコンピュータ室は利用度が高く満足度が低下(72.4%→57.5%)した点は懸念事項であり、今後の検討課題と言える。2019年度の事務局対応に関する満足度は、窓口開設時間が61.3%で、他の項目は73%前後と2018年度に引き続き高い満足度を維持している。

3. 日常生活

睡眠と食事の状況を図3に示す。「よく」及び「だいたいとれている」と回答した者は66.4%で、2018年度の58.5%より改善傾向がみられる。食事のバランスは81.8%で、2018年度79.0%よりやや上昇した。次に1日の平均学習時間（授業時間を除く週当たりの平均）を図4に示す。また、()内に2018年度実績を記載する。1日平均1時間未満は38.7% (29.0%)、1～2時間未満29.6% (33.1%)、2～3時間未満16.8% (20.2%)、3～4時間未満7.1% (8.1%)、4～5時間未満4.0% (2.6%)、5時間以上2.0% (5.1%)、不明1.7% (1.8%)という結果になった。平均学習時間が1時間未満と答えた割合が増加したことは、今回の調査で最も重要な懸念事項と言える。

本学のクラブ等への参加、学外サークルへの参加、アルバイトの実施状況を図5に示す。また、()内は2018年度実績を示す。学内クラブ等への参加者数は53.3% (55.1%)、学外のサークル・ボランティア活動は20.8% (25.4%)でやや下がった。アルバイトは83.8% (84.2%)で前回同様に高く、留学生には引き続き制限時間を遵守するように指導をしていく。

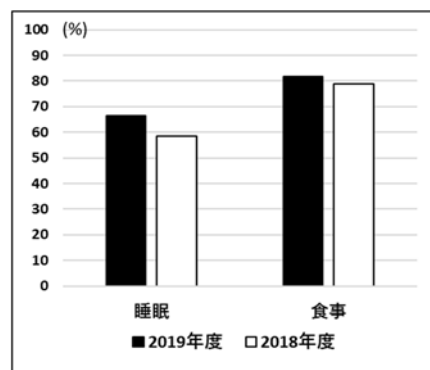


図3 睡眠・食事の状況

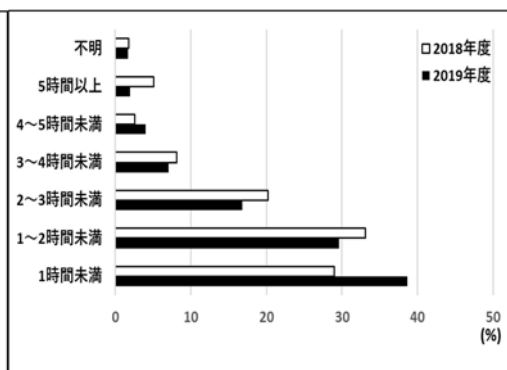


図4 一日の平均学習時間

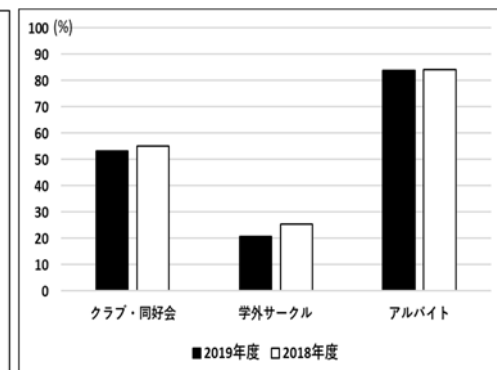


図5 クラブ・アルバイト等の状況